

優秀賞

生徒指導におけるITを活用した情報共有と 共通認識を深める実践

岐阜大学教育学部附属中学校 わたなべすすむ
渡辺進武

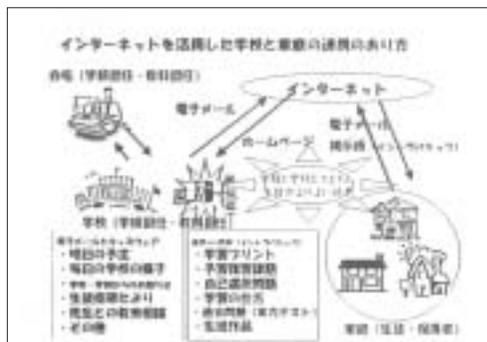
1 はじめに

本校は、開校以来、人間教育にもとづく「独歩・信愛・協働」を目標に、教育活動を行ってきている。その中で、人間と人間どうしの心の感性と共感を軸にした「人と人とのコミュニケーション」を大切にしながら、学習指導においても生徒指導においても情報の収集・活用・発信・共有などを効果的に行うための方法の一つとして、ITを活用した教育実践を全職員が一丸となって行ってきた。

生徒指導では、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長をはかりながら、その健全な成長を促し、生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための能力の育成を目指すという積極的な意義を持っている。そういった意味で、単なる生徒の問題行動への対応といった消極的な面にとどまっているものではないと考える。

その生徒指導に、従来から大切にしている生徒の内面に対する共感的理解や教師と生徒との信頼関係を結んでいくような直接的な指導に加え、空間的・時間的に効率性や有効性を十分に発揮しうるITの「光」の部分の当てることによって、教師間、教師と生徒との間、学校と家庭との連携において、情報の共有及び共通認識を行えるように実践を行ってきた。

本報告では、本年度、生徒指導主事として行ってきた実践の一部について述べる。



資料1 / インターネットを活用した学校と家庭の連携のあり方

2 実践の視点

基本的な考え方は次の通りである。
全教職員の情報の共有と共通理解
学校としての協力体制・指導体制
家庭や地域社会及び関係機関等との密なる連携・協力

つまり、教師同士、教師と生徒、生徒同士、教師と家庭（保護者、生徒）の連携をITを活用しながら行っていこうとするものである。

具体的には、生徒・保護者向けに、生徒指導主事として、掲示板「学校からのお知らせ」、「毎日の学校生活の様子」を毎日発信した。

また、同様に、毎日のE-Mailで、全家庭とを結ぶ保護者用「メーリングリスト」を活用して、「生徒指導だより」を送信した。

さらに教師間の情報の共有や共通認識を図るために教職員全員の「メーリングリスト」を活用して、生徒指導関連のメールを行った。

3 | 平成13年度の生徒指導のあゆみ

(1)平成12年度の生徒指導から

平成12年度の生徒指導の実践を振り返って次のような点が浮かんできた。

ア、個々の規範意識を育成していくこと

生徒の目指す姿に向かったこだわりのある援助と生徒との信頼関係を基盤に、落ち着いた学習や生徒活動のできる良い雰囲気や学級づくりにより、学校全体がさらに明るいものになってきた。また、あたりまえのことがあたりまえにできていく基本的な生活習慣が身についてきている。しかしながら、まだまだ主体性や協調性に基づく豊かな表現力の育成の必要性を感じる。

イ、人間関係の醸成

いくつかの問題行動の指導で感じるの、生徒どうしの人間関係の希薄さであった。刹那的な楽しみや利己的で表面的なかかわりが、仲間と支え合ってよりよい集団づくりをすることを妨げている原因となっている。

(2)本校生徒指導の重点について

本年度の「生活指導の重点」を次のように設定し、4月の第1回の教官会議で共通認識を持った。

生徒の目指す自分の姿を考えさせ、それに向かって取り組む環境づくりをし、よさを認め励まし、ねうちを指導しましょう。

自分に自信をつけるには、つけることのできる環境設定、係活動・ボランティア活動・行事など、姿として見えてくるもので、生徒の姿を認め励まし、自分のよさを感じ、仲間と認めあえる環境をつくりだしましょう。

生徒を多面的にとらえましょう。生徒の変化や環境の変化に敏感なアンテナをもちましょう。

一人の教師の思い込みだけで生徒を決めつけず、いくつかの見方で生徒のよいところを

認め、伸ばし広めるためのくふうをしましょう。そして、共感的に生徒を理解していきましょう。生徒の表情、服装、話しぶり、持ち物、仲間関係、教室、廊下などの環境の変化に敏感で、生徒のよさをいっぱい見つけていける余裕と配慮をもちましょう。たとえば、一緒に外で遊ぶとか工夫をしましょう。

個に応じた指導をしましょう。

家庭環境、学習環境、生育暦、性格等、どれも千差万別です。基本は生徒に軸足を置き、子どもの夢や保護者の希望などをふまえながら、指導援助にあたりたいと思います。特に、問題行動の指導等生徒を呼んで指導したときには、「先生に話をして良かった。」「先生から話を聞いてよかった」「気持ちがすっきりした」というように得した気持ちにして帰りたいものです。それは生徒のすっきりした表情を見て判断してください。

こだわりのある指導をしましょう。

みんなで決めたこと、社会的にも許すべきことでないこと等、生徒が責任を取るべきことに対しては、その行為に対して、中途半端にせず厳しく指導しましょう。これ以上は...という境界線は、はっきり引きにくいものであるが、教師としてというよりも人間として許せないことは見逃さず指導しましょう。

いいことも悪いこともオープンに、ガラス張りの指導をしましょう。

担任や学年で抱え込まず、教室内や相談室でどンドン気軽に話しましょう。願う姿が同じであれば、やり方が違っていても、いろいろな先生の方で生徒もその姿に近づいていきます。うまくいったのは自分だけの力ではありませんし、うまくいかなかったのも自分の力のなさだけではありません。中学校は、いろいろな先生のかかわりや共通行動によって、生徒が育てられていきます。子どもの願う姿を同じにすれば、よりよい知恵が生まれます。報告・連絡・相談を大切にしましょう。

生徒とバリアフリーなあたたかい関係をつくりましょう。

生徒と気軽に話せる関係を普段からつくるようにしましょう。何でも言うことをきいてくれるのがバリアフリーな関係ではありません。教師の思い（指導）が素直に聞ける生徒との関係のことです。「あなたのことを私は大切に思っているんだよ。」という気持ちで接しましょう。また、保護者と担任教師が、同じ思いで生徒の成長を願っているという立場にいきましょう。うちの担任は、問題があったときだけ、またうちの子だけ連絡してくるといわれることのないようにしたいものです。親の信頼は、普段からのいいことも含めた担任のその生徒を大切に思う気持ちが伝わるときです。

わかる授業、楽しい授業で、自己達成感や成就感をもたせましょう。

当然のことですが、肝心なのが授業です。手を抜かず、一人一人の学習の個性化のために、指導の個別化や教材研究を徹底的に行い、どの生徒もその教室から離れたくないとかその教室に来て学習するのが楽しみだとか思えるような授業づくりを真剣に行いましょう。授業こそが生徒指導の基本です。授業の中で、仲間づくりをしたり自己表現の能力や自主性を高めたりしましょう。

ボランティアの心をもたせ、自分や学校などに誇りをもたせましょう。

生徒に自主性をもたせ、附属中学校に通う自分に誇りがもてるような工夫をしましょう。朝清掃や交通当番、訪問者の学校案内など、自分たちの活動に自信がもてるボランティア精神を経験を通して、培いましょう。

以上のように、具体的な心構えを教官全員でもった。また、教官専用のwebページの職員掲示板にアップロードし、いつでも振り返ることができるようにしておいた。

(3)職員会議までの全職員への提案と共通認識について

生徒指導主事の職員会議における生徒指導の方針や職員会議での共通理解及び連絡は、生徒の生活を左右したり、教師側の生徒指導の構えを持つ上で重要なものである。

本校では、たとえば1学期後半の生徒指導の場合は、ITを活用して、次のような経路で職員会議までの審議を行い、共通認識をもっている。

まず生徒指導主事が全教職員に対して生徒指導に関する資料や提案を発信する。

教職員のそれぞれは、事前に、自分宛に届いたメールを自分なりに考え、生徒指導主事に返信していく。そうすることで、職員会議までには、生徒指導主事の思いや考え方を把握した上で、しかも自分の考えをもって、職員会議に臨んでいける。また、生徒指導主事もいろいろな考えをもとに職員会議までに、まとまった資料を完成させることができる。

職員会議は短時間で効率よく生徒指導に関わる部分の各部会、各学年等の調整や連携及び職員間で共通な認識を図ることができる。

共通認識されたことがらをwebにまとめ、教職員の誰でもいつでも見られるようにしておく。

4 具体的な方途と実際の様子

(1)掲示板「学校からのお知らせ」の発信

本校webには、掲示板「学校からのお知らせ」があり、毎日学級で日直が朝の会で教務関係、生徒指導関係等の学校からのお知らせをよんでいる。また、家庭でも生徒や保護者が、学校からのお知らせや学校生活についての情報を収集し判断している。

本校は、ノーチャイムで時間を自分たちで意識して行動しているが、これと同様、学級

に設置しているパソコンでそのwebから情報を自主的に収集することで、教室や放送室からの放送設備を使った連絡の放送や朝の職員打合せ、学級ロッカーをつかった張り紙での連絡が全く不要になった。つまり、教師側の一方的な押しつけ的な注意や単なる連絡が時間的にも空間的にも、さらに精神的にも自由度が高くなり、静かで落ち着いた学校環境を創り出し、そのことが、自己実現を期待する中学校の生徒指導の基盤を担っているといえる。

(2)「今日の学校生活」で発信

毎日の学校生活で行事や生徒の表情や様子を写真入りでコメントをつけて毎日本校webにアップロードしている。それを、家庭から見ることで、保護者が学校の様子がわかり、生徒との共通の会話のきっかけづくりをすることになった。また、生徒も自分たちの活動がwebにのっていることで、自信をもったり、やる気をもって次の活動へと取り組んでいった。

掲載内容は、その時折の行事を含め、生徒指導主事が見つけた、ぜひ家庭に知らせたいよい姿を中心に、毎日、写真取材を行い、『『今日の学校生活』』にのせるよ。」とあって、そのよさを認め励ました。その内容は、多岐に渡り、できる限りすべての学級のよさがアップできるように努めた。

写真2 / 「今日の学校生活」webの例



(3)家庭ML「生徒指導たより」での発信と意見交流

本校は、家庭とインターネットで結び、学級担任レベルから校長レベルまでそれぞれ教育相談はじめ、学級・学年・学校からの連絡、学級通信、学年通信、PTAからのお知らせなどそれぞれ役割や立場に応じて、家庭との連絡と調整を行ってきている。

また、インターネットのメーリングリストの、同じものを短時間に一斉に送付することができる利点を活かし、保護者のE-mailを学級・学年・学校全体ごとにグループ化しPTAのメーリングリストを形成し、それぞれの立場で必要な内容を送信している。

生徒指導主事として、このメーリングリストを使って、毎日、家庭の保護者向けに、生徒指導の視点から見た生徒のよさや連絡事項を送信してきた。

以下に、送付した「生徒指導たより」を一部示す。

生徒のよさを知らせる内容

最近職員でも話題になっているのに

挨拶があります。

登校してくる生徒のあいさつが気持ちいいのです。

玄関，廊下，教室などすれ違ったとき，向こうの方から姿を見かけたとき，どの生徒も気持ちのよいあいさつをしています。

「先生，おはようございます。」

「こんにちは。」

「さようなら。」

そんなさわやかな声をきくたびに

私たちは，じっくり生徒と向き合い

「おはよう。いい挨拶だね。」とか

「おはよう。今日は...だね。」などと

返しています。

そして，その元気さにほっとします。

遅刻をしてしまった生徒も「おはようございます。」の

挨拶をして，その後「明日は遅れないように心がけるよ。」

って挨拶で気持ちも前向きになっています。

こんな一日のさわやかなスタートを

これからも続けていってほしいと思っております。

保護者に対して配慮を求める内容

今日のPTA懇談会で出てきた，ちょっと気になる話。

「迷惑メールやチェーンメールなどが送られてくる。

“このメールを10人の人に送ると幸せになります。”」云々。

「不幸の手紙」というものと同じで，

送られる側のさまざまな心理を考えると，

送る側の道徳性をしっかりとってほしいものです。

危険なウイルスやメールアドレスの不用意な流出などが，

電子メールの手軽さとともに「不幸の手紙」との違う点です。

電子メール特有の問題が出てきます。

それぞれのご配慮をお願いします。

学校で起きたことで理解を求める内容

今日は，岐阜市の小学校中学校全ての先生の

研究会のため，

生徒達は，13時には附属中学校から下校しました。

帰りの会で，生徒指導からのテレビ放送と担任からの

お話をしました。

早く帰るときに、起こった事件で、
今まで聞いている話として、次のような話をしました。
オートバイや自転車を盗んでのりまわす。
万引きをする。
買い食いをしていて、先生に注意を受ける。
エアガンで遊んでいて、近所の方に注意を受ける。
学校帰りに、高校生風の生徒に暴力をふるわれお金をとられる。
ゲームセンターなどの場所で、知らない人に声をかけられる。
それに続けて、次のように注意を促しました。
「「おもしろ半分」とか「何も考えずに」とか「人につられて」とか
といった行動が、人に迷惑をかけていたり、
社会的に許されないことだったりします。
まっすぐに帰り、家でのご過ごし方も考えましょう。
自分の頭で正しいことわるいことを十分に考え
附属中学校の誇りをもって過ごし方を考えましょう。」

本日は市内の先生方や補導委員の方、PTA校外パトロールの方などに巡回していただくことになっています。
ありがとうございます。

昨日いいことがありました。
先週から図書館担当や学年の先生で、
関係している人を何人が集めて開いていたことです。
図書館のパソコンのキーボードの接続部分の
端子（たんし）を曲げてしまったのを知っている人が
いました。そして、みんなが楽しく使える環境づくりのために
話してくれました。
よい使い方をしている大多数の人が、ちょっとした一人二人のために
嫌な思いをすることになります。みんなで気持ちよく使える
環境づくりをめざしていけるといいですね。
もし、間違ったら、自分から「ごめんなさい。」といえることが
大切ですね。

生徒指導 渡辺

、 その他

心配してくれる人の顔が浮かびますか？
中学生と話しながら、
反省したことを次に生かしていけるかどうかは
そのあたりにあるのかなってよく思います。
やってはいけないこと、人に迷惑がかかること、人が困ること……。

その後で、生徒の反省している誠実な姿を見ると思います。

次に、同じ状況で、自分の弱い気持ちに、負けそうになるとき、悲しんだり、怒ったりしている自分に関わって心配してくれるまわりの人たちが浮かぶのだろうか。特に家族の顔が。

その後、同じ状況でも、やってはいけない行為をしないようになるのではないかな。

「ごめんなさい。」「ありがとうございます。」

心配してくれていた家族に素直な気持ちですと言えるかどうか。いいにくいところを言わざるを得ず、言ってしまう心の様子が、「いいなあ。」と思います。

生徒に対してその成長ぶりを心から喜べます。

一面的な見方ではありますが、いつも家族の顔を思い浮かべて欲しい。そんな気持ちです。

みんないいところがある。

いっぱいある。

コツコツと地道に取り組んでいるA子さん。

背筋がピンと伸びて、ニコニコ笑顔。

いつでもニコニコ顔ばかりではなく心も曇ることもあるだろうけど、ニコニコ笑顔になるように、努めている気がします。

そういうときは、自然に気分も晴れてくるようです。

彼女は、あまり話をする方ではないけれども、

友達が手を貸して欲しいときには、そっと手を貸している。

仲間はそんな彼女を大切に思っている。

私たちは、そんな彼女に、思いやりや明朗さを感じます。

今、附属中の職員は全員でITを活用しながら、

生徒全員のよさや素晴らしさをお互いに感じ合い、認め合い、伸ばせるように努力しています。

このような毎日の「今日の学校生活」「生徒指導たより」に対していつも、保護者から送信していただくあたたかい励ましのメールは嬉しい限りで、また、生徒のすばらしいところを見つけていこうという気持ちになる。

いつも娘が大変お世話になっております。先生からのメール，ホームページの「学校の様子から」を楽しみに読ませていただいております。

特に学校での様子からを見ながら，子どもと学校での出来事について話をしたり，先生からのメールを子どもや母親に読ませて，学校での生活や家庭での生活の心構えを話し合ったり，子どもと親とのコミュニケーションアップに活用させていただいています。

今後も先生の心のこもった温かい視線を反映した「学校の様子から」とメールを楽しみにしております。また，子どもの指導もよろしくお願いいたします。

以下は，毎日の「今日の学校生活」と「生徒指導たより」の内容の一部である。

月日	曜日	「今日の学校生活」の内容	「生徒指導たより」の内容
5月14日	月	球技大会看護練習	生徒昇降口の砂ぼこり
5月15日	火	心の部屋かざり - 真剣なまなざし	「ごめんなさい」「ありがとう」練習中に
5月16日	水	心の部屋かざり - 「融合」	応援 - はつらつとした声援
5月17日	木	音楽の学習と中間反省会	静かに整然と並んで，ていねいなごあいさつ - 歯科検診より
5月18日	金	放課後の生徒の活動	中間反省会 - じっくりと活動を見つめています
5月19日	土	小中交流活動 No. 1	携帯電話による犯罪が続発しています
9月1日	土	2学期始業式	副校長先生のお話「間違い恐れずDO」「落ち着いた生活を」
9月3日	月	仲間との工夫ある学習	遅刻する生徒
9月4日	火	道徳授業と生徒会の活動	実行委員会のお礼と夏休み作品展のお知らせ
9月5日	水	3年総合的な学習	すがすがしさの姿・窃盗のお知らせ
9月6日	木	仲間との楽しい給食	
9月7日	金	雨の日の授業	こつこつ地道なA子さん - 教官MLでの認め合い
9月10日	月	教育実習開始	教育実習生・バグズプロジェクト・デイリーコミュニケーション
9月11日	火	台風一過	日直日誌反省3組の2度拍手
9月12日	水	掃除・総合・NY	教育実習生の思い
9月13日	木	9月の授業参観【PTA】	迷惑メールやチェーンメールの対応(学級懇談会での話から)
9月14日	金	第2回実力テスト	心配している人の顔が浮かびますか？

(4)教職員メーリングリストの活用

次に，生徒指導の要である「教師どうしによる共通理解(情報共有)」について述べる。

家庭と同様，本校の教師集団28名には，すべてアカウントがふられ，教職員の全員によるメーリングリストがつくられている。

それぞれの立場で，収集した情報を共有すべく，それぞれが発信し，それぞれの判断で，レスポンスを返しながら，点としての情報を線にとらえ，さらに面として生徒の指導に役

立てていくように志向してきた。

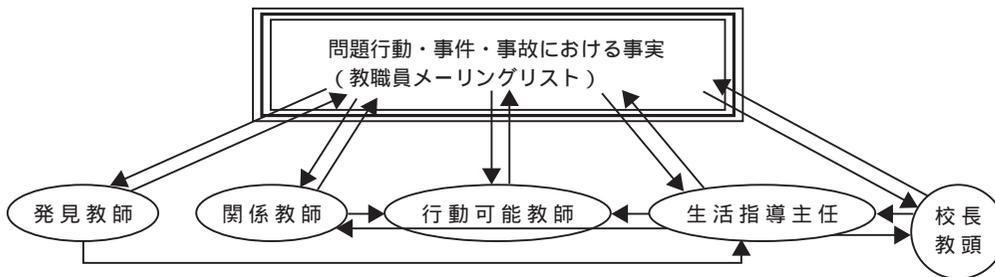
4月1日から10月17日までの教職員メーリングリストの総数1913通のうち，生徒指導主事からの教職員メーリングリストへの送信したメールは，263通であり，全体の約13.7%をしめる。その内訳は，次の通りである。

学年・他部会との連絡調整	19通	7%
生活指導・教育相談関連	130	49
生徒指導の連絡	45	17
情報教育関連の生徒指導	23	9
情報教育指導	37	14
情報教育関連の連絡	14	5

資料3 / 教職員用メーリングリストの内訳

従来、問題行動が起こったときの生活指導では、その問題行動の生徒の学級担任に、その問題行動を見つけた教師が連絡をし、それを学年主任・生徒指導主事が聞き、教頭・校長の管理職に連絡する。それから、その問題に関係しそうな教師を決め、その教師集団で集まって、事実確認及びその対応を考える。そして、校長の決断により、教師による具体的な行動にうつすことになる。

これが、ITを活用することで、情報が平板で平等になってくる。まず、問題行動を見つけた教師が、生徒の様子を関係者に連絡をする。そして、その生徒を保護しながら、時間を見つけて、教職員のメーリングリストに書き込みをする。その時間授業で離れていた教師も休み時間や空き時間で、その情報をキャッチできる。そして、自分のつかんでいる他の情報をレスポンスする。すると、点であった問題行動が、線で結ばれてくるようになる。生徒指導主事は、全体をメールや実際の生徒、対応した教師と話しながら、その判断をメールで流す。管理職の教頭や校長とともに、直接、事情を聞き、その問題行動に対する対応を決める。その対応に、メールをよんでいるどの教師でも、一緒に共通な方針で生徒への対応ができるようになる。



以下に、その具体的なメールを示す。

生活指導・教育相談関連の情報

2学期が始まって、3日過ぎました。
 2学期になってよい信号を出しながら
 過ごしている子が多くいます。
 ところが、一方で、援助の必要な信号を出しながら、2学期を過ごしている生徒もいます。
 スカートの長さ、通学靴の色、ソックス、腕や首のプレスレット、
 バッチなし
 などの服装や遅刻、欠席、顔色、髪の毛、シャツだし、色シャツなどの様子など
 そんな実態をつかんでいらっしゃると思います。
 そして、各務先生のように援助をいただいていると思います。
 ご自分の学級の生徒の1学期と成長したようすと2学期はじめのようすと援助内容をfuchumlでお送りください。

先ほども、スカートが短い生徒を注意しましたが、逆切れ状態になりかねない
(私との信頼関係がないのでしょうか。...学級担任や学年で援助はされているのか計りしれないわけで...)

1時間目は3年1組の理科でした。
E君は、まわりの生徒と同様、服装も注意するところもなく熱心に取り組んでいました。
そばにいるS君のこのところの理科で1番の活躍ぶりがそうさせているのかなあとと思います。
Tさんも誰とお話せず、普通通り自分の課題をしながら、机間指導している私に、やはり普通通りに話しかけます。昨日までのだらっとした姿とは違っています。
Hさんも授業も熱心に取り組んでいます。すぐ前のIさんとこやかに私に話しかけていました。
集中力のある、私語も一つもない授業になりました。

情報関連の生徒指導

給食後の時間を使って
M君の名前でログインして
アダルトサイトを閲覧していた
M君N君U君(実際にはY君はいなかったようです。)を
呼んで、みんなで学習で使う学校のパソコン
の使い方の指導をしました。
他にも同じような使い方をしていた場合
その場で注意していただき、
メールで職員にお伝え下さい。

このような教職員のメーリングリストを支えているのが、関係教職員どうしのメールのやりとりである。

中学校では教科担任制であるため、1日の時間で顔を合わすことが少なく、全員が集まることも困難である。ところが、メールを使うと、自分の発信できる時間に発信しておけば、あとは、その教師が必要であるかないかに関わらず、必ず配信される(ズレた時間の共有)。従って、自分の授業でない時間では、そのメールをよみ(情報の共有)、知ってい

ることをさらにレスポンスできる。さらに、その指示に従って関係者との打ち合わせも教師間でのメールのやりとりでできる。さらに、それがきっかけとなって、肝心の教師集団が自然に集まって知恵を出し合いながら、生徒指導の方向性を話し合える。

生徒指導主事である私が、4月1日~10月17日の間に、このアカウントを使って外部の連絡・会議調整・原稿づくり等もあわせると総数980通ある。そのうち、教師個人及び職員小グループに送ったメール数は、183通

(19%)であり、その期間での教職員メーリングリストへの送信数263通(27%)にあたる。生徒指導でのメールを多用していたことがわかる。

このことから、人を育てる生徒指導においても、生徒を育てる上での情報収集と共有、そして教育活動全般においてすべての教師による同じような願いを持って、生徒の自己実現を援助していくためにも、メールの役割の効率性と重要性、そして有用性を感じている。

5 | おわりに

メールやwebなどのITを活用することで、家庭や教師どうしの連携が図られ、生徒がより見えてくるようになってきた。生徒指導主事の役割が円滑にそしてどの教官にも見える指導ができるようになってきた。しかし、その中で、ITでは生身の人間が見えてこない(影)。そこで、必要になってくるのは、やはり、顔をつきあわせて行う人間味ある生徒指導である。ITを活用すればするほどその重要性を認識し、じっくりと取り組める分、より今まで以上に、その人間味あふれる生徒理解の技が求められてくると考える。